

モーツァルト作曲

歌劇 **フィガロの結婚**



2003年11月27日(木)

春日井市民会館

主催 春日井市・財団法人かすがい市民文化財団

後援 春日井市教育委員会・中日新聞社・中部大学

ごあいさつ

本日は、ようこそおいでくださいました。さあ、春日井でオペラを楽しみましょう。昨年の《魔弾の射手》の好評について、今年は、もう一つのオペラの国から4人の歌手のみなさまをお招きし、さらに日本の5人の優れた歌手のみなさまにもご出演願って、モーツァルトの歌劇《フィガロの結婚》を上演することにいたしました。私たちの春日井市交響楽団も参加します。演奏会形式でハイライト公演ではありますが、オペラの感動はすべてここにあります。どうか、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

2003年11月27日

財団法人かすがい市民文化財団

キャスト紹介



小間使いのサザナ アンドレア・ランク ソプラノ
Andrea Lang, Soprano

ドイツ生まれ。父も母も音楽家で、幼いときから児童合唱団で歌っていました。16歳の時に抜擢されて《フィガロの結婚》のバルバリーナを歌いました。ベルリンの音楽学校で学び、数々の賞を得ています。《薔薇の騎士》のゾフィーや《後宮からの誘拐》のコンスタンツェといった主役を歌っています。



伯爵夫人 ヘレーネ・リンドクエスト ソプラノ
Hélène Lindqvist, Soprano

スウェーデン生まれ。ドイツのザールブリッケン演劇音楽大学で学び、声楽のディプロマをとりました。ワーグナー協会のパイロイト賞をえて、カッセルの国際声楽コンクール女声部門で優勝。古典から現代まで、オペラのレパートリーは広く、特にロジーナやパパゲーナやエウリディケやジルダが持ち役です。



召使いのフィガロ ヴォルフガング・コッホ バリトン
Wolfgang Koch, Bariton

ドイツ生まれのバリトン歌手。ミュンヘンの音楽大学で学び、イタリアでジャンニ・ライモンディなどに師事。ベルリンの歌劇場やシュトゥットガルト州立歌劇場などと契約。《セヴィーリアの理髪師》のフィガロや《魔笛》のパパゲーノを歌い人気を高め、多くの有名歌劇場から招かれて主役を歌っています。



伯爵 アンドレアス・ヤンコヴィツシュ バス
Andreas Jankowitsch, Bass

ウィーン生まれ。ウィーン少年合唱団でボーイソプラノを歌いウィーン音楽大学で作曲とオルガンを学び、声楽はフルタ・ベリーに師事。《ドン・ジョヴァンニ》のレボレロ役でオペラデビュー。エディタ・グルペローバとロッシーニの《セミラーミデ》のニーノの役で共演しCDにもなっています。



お小姓ケルビーノ
大須賀園枝：ソプラノ

名古屋芸術大学卒。愛知芸文フェスタ「カルミナ・ブラーナ」や春日井市の「オケ・フェスタ」にソリストとして出演。第9回全日本ソリストコンテスト声楽部門優秀賞。



医者で法律家バルトロ
松下雅人：バス

国立音楽大学大学院オペラ科修了。矢田部賞受賞。ボン歌劇場専属バス歌手に契約。豊橋市民文化賞受賞。関西二期会理事。愛知県立芸大講師。名音大学専任講師。



乳母マルチェリーナ
岩田千里：ソプラノ

名古屋音楽大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修了。今年9月愛知県芸術劇場大ホールでカレンを歌い好評を博す。現在名古屋二期会準会員。



コンサートマスター
宗川諭理夫

愛知県豊橋市出身。プロの交響楽団のコンサートマスターを経て現在フリーのヴァイオリン奏者として活躍。中部日本交響楽団を設立。様々な演奏会の企画も担当。



庭師の娘バルバリーナ
毛利美奈子：ソプラノ

名古屋音楽大学音楽学部声楽科卒業。「フィガロの結婚」「天国と地獄」「真夏の夜の夢」「ラ・ボエーム」などのオペラや宗教曲のソリストとして活躍中。



コレペティートルとチ
ェンバロ 甚目裕夫

国立音楽大学大学院修了。コレペテ(オペラ指導者)や伴奏者として活躍中。国の内外でベルカント唱法を学ぶ歌手や合唱団や後輩のコレペテを直実に育てている貴重な才能。



音楽教師バジリーオと
判事ドン・クルッチオ
毛利和雄：テノール

中京大学法学部卒業。名古屋二期会研究生を経て演奏活動。オペラや「第九」に出演。ユーモア溢れる語り口と甘い歌声で多くのファンをもつ。現在愛知県立芸術大学大学院オペラ要員。



お話
部築正道

名古屋大学卒。ワーグナー研究で文学博士。中部大学教授。朝日新聞音楽評担当。愛環音楽連盟理事長。春日井市交響楽団音楽監督。かすがい市民文化財団理事。主著「楽劇：音と言葉の美学」

オーケストラ：中部日本交響楽団・春日井市交響楽団

衣装：下斗米 雪子

メイクアップ：きとう せいこ

台 目：パルコシェニコ・オペラ・アンサンブル

伊藤智子・奥村香代・西塔 理絵・澤田まどか・高橋美穂・高部 恵理子・高柳有紀・田村明子・西村 郁・橋本麻美・原田美織・伴 真由子・秋田洋平・大橋拓幸・片岡悠樹・加藤正裕・鎌田 肇・蜂須賀一輝

お 話

第1幕

ここはスペイン。セヴィーリアにほど近いアルマヴィーヴァ伯爵のお城。今夜、下男
のフィガロは奥さまの小間使いスザンナと結婚します。朝まだき、フィガロは、新居へ引
越しの最中。部屋へ入れるベッドの大きさを測っています【5…10…20…】。
スザンナは、「お殿さまは私が好きなので、うるさく言ってくるの」とフィガロに訴えます
【もし真夜中に奥様が】。フィガロは、「そんなお殿さまは許せない」と怒って歌い
ます【お殿さまがお踊りになりたいなら】。一方こちらは乳母のマルチェリー
ナ。フィガロにお金を貸しました。返せないときには結婚することになっていたので、医者
のバルトロに裁判に持ち込むよう頼みます。いつもフィガロにやりこめられているバルトロ
は、大喜びで引き受けます【復讐こそが賢者の楽しみ】。お小姓のケルビーノが
スザンナの部屋へやってきます。伯爵に叱られてこの城を出て行くように命じられたの
で、奥方にとりなしてもらいたいです【自分で自分が分らない】。そこへ、伯爵
がこっそりとスザンナに会いにきました。ケルビーノは慌てて椅子の中に隠れます。伯
爵は「今夜、庭へ来るのだぞ」とスザンナを口説きます。音楽教師のバジーリオもや
ってきます。伯爵は慌てて椅子の後ろに隠れます。バジーリオが「ケルビーノは奥方さ
まが好きだ」というので伯爵は姿をみせて、「いつも奴は私のじやまをする」といきなり椅
子のカバーをとると、そこにケルビーノがいるではありませんか！ 伯爵は「お前は軍
隊へ行け！」と命じます。そこへフィガロが領民たちとやってきて伯爵に「初夜権をお
やめ下さい」と嘆願します【誓れ高きお殿さま】。フィガロはケルビーノが軍隊行
きになったのを聞いて彼をからかいながら歌います【もう飛ぶまいぞ、この蝶々】。

第2幕

伯爵夫人の部屋。孤独な夫人は一人寂しく、浮気な夫の愛が戻ってくるように祈り
ます【示したまえ、愛の女神よ】。フィガロが「お殿さまをこらしめるために、『奥方
さまに好きな人がいます』と手紙を書きましょう。夜はスザンナの代わりにケルビーノを
女装させて伯爵とデートをさせましょう」と提案します。早速、ケルビーノは着替えてや
ってきて自作の歌を奥方さまに聞かせます【恋とはどんなものかし
ら】。そこへ手紙を読んだ伯爵が大急ぎでもどつてきました。さあ、大
変。ケルビーノは衣装室へ隠れます。伯爵は衣装室にだれかがいるの
に気がつきます。奥方さまも開けようしないので、伯爵は夫人を連れて
鍵をとり部屋を出ます。その間にスザンナはケルビーノを逃がし、身代
わりに衣装室に入ります。戻ってきた伯爵も奥方さまも、衣装室からスザ
ンナが出てくるのでビックリ！ フィガロが様子を見にやってくると、マル
チェリーナを先頭にバルトロとバジーリオもやってきます。三人の悪人た
ちは、お金を返さないフィガロを裁判にかけよう、伯爵に頼みます。



第3幕

午後です。ここは伯爵の書斎です。スザンナが奥方さまに頼まれて、伯爵をだますために夜のデートに誘いに来ます。伯爵は大喜びです【ひどいぞ、どうして今まで】。一方で、いよいよフィガロの裁判が始まります。伯爵は生意気なフィガロをやっつけるいい機会だと張り切っています【私がついに息をついている間に】。もちろん裁判はフィガロの負けです。親子ほども年の違うマルチェリーナとの結婚を迫られたフィガロは、「私は赤ん坊のころ盗賊にさらわれたので両親を捜しています。両親の許しがなければ結婚できません」と言い張ります。その言葉を聞いてマルチェリーナはビックリ。実は、彼こそマルチェリーナとバルトロの間に生まれた子供だったのです【お前のお父さん】。これで孤児で貧乏なフィガロの問題は一気に解決しました。でも、まだ伯爵の浮気の問題が残っています【楽しい思い出はどこに】。伯爵夫人はスザンナにデートの手紙を書かせます【そよ風によせる歌】。村の娘たちが花をささげにやってきます【お受け下さい、奥方さま】。その中にケルビーノがいますが、告げ口屋のバルバリーナの「脅迫」で伯爵は彼を許さざるをえません。めでたくフィガロたち親子二組の結婚式が始まります【祝婚歌】。

第4幕

夜です。バルバリーナが、スザンナにわたすように伯爵から頼まれた返事がわりのピンを探しています【落としてしまった】。そこへフィガロが母親のマルチェリーナと楽しく語りながらやってきます。バルバリーナから、スザンナと伯爵のデートの約束を知らされて大に怒ります【世の夫どもよ、心しろ】。フィガロが約束の場所へ先回りして、こっそりとかくれているところへ、奥方さまとスザンナがやってきます。二人はお互いに衣装を取り替えて相手になりますましています。スザンナは自分を疑っているフィガロをからかって歌います【花冠の歌】。奥方は松の木の下で伯爵を待ちます。やってきた伯爵は、スザンナだと思って奥方さまを抱いたりキスをしたりするので、我慢ができなくなったフィガロが飛び出していきます。こんどは伯爵が逃げ出します。そこへ奥方さまに変装をしたスザンナが、フィガロの気持ちを試しに現れます。フィガロがすぐにスザンナだと分かったので、スザンナは大喜び。お互いの誤解も解けて二人は仲直りをします【仲直り、仲直り】。そこへなにも知らない伯爵が戻ってきて、フィガロと一緒にいるスザンナを奥方さまだと思いこみ、フィガロ共々取り押さえます。バルトロをはじめ、仲間がみんな集まってきて、「どうか、許してやって下さい」と謝ります。怒っている伯爵は、自分の浮気は知らぬ顔で、決して二人を許そうとはしません。そこへ本物の奥方さまが現れて、スザンナの衣装をとり、「私もみなさんと一緒に許しを乞いましょう」というので伯爵はビックリ！　すべてを悟った伯爵は、「奥方、私を許してくれ」と謝ります。奥方さまは伯爵を許します。全員の喜びの声で、愛と寛容の物語は幕となります【すべて、めでたし、めでたし】。



《フィガロの結婚》演奏曲目

第1部

1. 序 曲
2. スザンナとフィガロの小2重唱「5… 10… 20」
3. 同 「もし真夜中に奥さまが」
4. フィガロのカヴァティーナ「お殿さまがお踊りになりたいなら」
5. バルトロのアリア「復讐こそが賢者の楽しみ」
6. ケルビーノのアリア「自分で自分がわからない」
7. 領民の合唱「誉れ高きお殿さま」
8. フィガロのアリア「もう飛ぶまいぞ、この蝶々」
9. 伯爵夫人のカヴァティーナ「示したまえ、愛の女神よ」
10. ケルビーノのアリエッタ「恋とはどんなものかしら」
11. スザンナと伯爵の2重唱「ひどいぞ、どうして今まで」
12. 伯爵のアリア「私がため息をついている間に」
13. スザンナ、マルチェリーナ、フィガロ、バルトロ、伯爵、ドン・クルツチオの6重唱「お前のお父さん」

休憩 [15分]

第2部

14. 伯爵夫人のアリア「楽しい思い出はどこに」
15. 伯爵夫人とスザンナ「そよ風によせる歌」
16. 村娘の合唱「お受け下さい、奥方さま」
17. 第3幕のフィナーレ「祝婚歌」
18. バルバリーナのカヴァティーナ「落としてしまった」
19. フィガロのアリア「世の夫どもよ、心しろ」
20. スザンナのアリア「花冠の歌」
21. スザンナとフィガロの二重唱「仲直り、仲直り」
22. 全員による第4幕のフィナーレ「すべて、めでたし、めでたし」

《フィガロの結婚》"Le Nozze di Figaro" K.492

原作 『ばかげた一日：あるいはフィガロの結婚』 公開初演 1784年
原作者 ピエール・カロン・ドゥ・ボーマルシェ (1732-1799)
歌劇 《ばかげた一日、またはフィガロの結婚》 フランス語から抜粋
作曲者 ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756-1791)
台本 ロレンツォ・ダ・ポンテ (1749-1838)
作曲年 1785年(29歳) - 1786年(30歳)
初演 1786年5月1日：ウィーンの(旧)ブルク劇場

都合により曲目を変更することがあります。
本日のチェンバロは電子ピアノをいたします。